

**「徳島教育大綱」
～4年間の検証～**

徳島県教育委員会

本日の内容

◆4年間の取組

1 重点項目Ⅰ

地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」の教育の推進

2 重点項目Ⅱ

一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

3 重点項目Ⅲ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

◆教育を取り巻く新たな課題

◆ 4年間の取組

重点項目 Ⅰ

地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」の教育の推進

- 1 障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援
- 2 次代を生きぬくキャリア教育の推進
- 3 徳島発の小中一貫教育の推進
- 4 二地域居住を加速する学校間移動の実現
- 5 全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進
- 6 地域防災を担う人財の育成

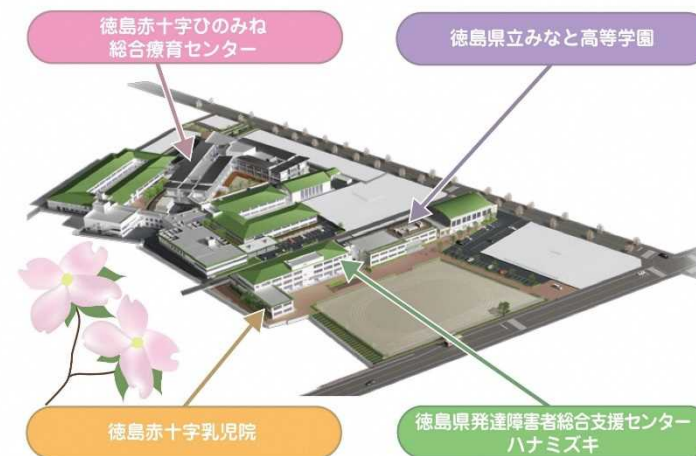
1.1 障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援

□発達障がい者総合支援ゾーン（ハナミズキ）を中心とした徳島モデルの推進

- 福祉・教育・医療・就労の機能を集結

□「みなと高等学園」をはじめとした特別支援学校におけるキャリア教育の充実

- とくしま特別支援学校技能検定の開発・実施
- You Me（ゆめ）チャレンジフェスティバルの開催
- 就労支援協定に基づく就業体験機会の拡大



発達障がい者総合支援ゾーン

「働きたい思い」を実現！



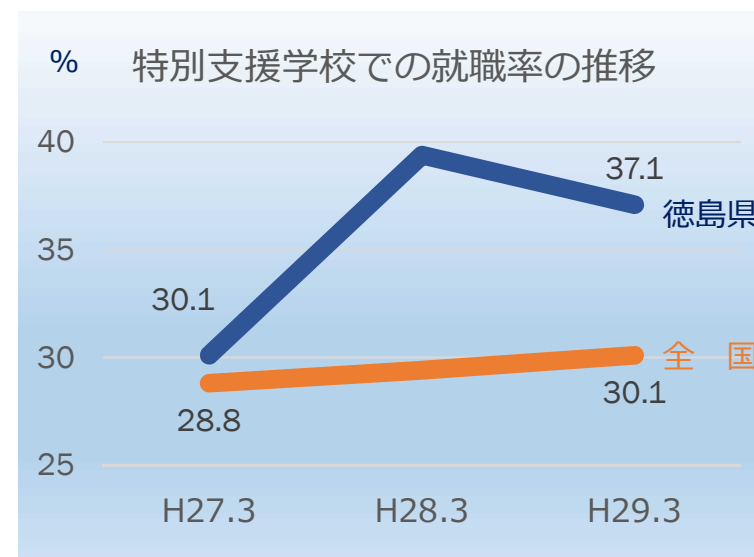
【技能検定】



【ゆめチャレンジフェスティバル】



【就労支援協定】



1.1 障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援

□小中・高校における特別支援教育の充実

・小中での発達障がい教育「徳島モデル」を展開

- 自律型教材による学習支援
- eラーニングを活用した教員の専門性向上
- 「ポジティブな行動支援」の実践

・高校における「通級による指導」の導入(H30.4～)

- コミュニケーション能力・ソーシャルスキルの向上



子供たちが
主体となった
あいさつ運動



高校における
少人数での
通級指導

□特別支援学校での新たな取組み

- 地域の事業所と協力した商品開発
- 特別支援学校からエシカル消費を発信
- 技能検定を活かした地域への貢献活動
- 2020年を見据えたスポーツ・芸術振興

特別支援学校での 新たな取組み

今後の方向性

就学前から卒業後まで、切れ目ない重層的な支援が求められている。

- 特別支援学校における「キャリア教育」の充実
- 幼小中高等学校における「発達障がい教育」の充実
- 全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上
- 「特別支援学校間の連携」による、質の高い専門教育の展開

1.2 次代を生きぬくキャリア教育の推進

徳島県キャリア教育推進指針

- 平成26年3月に策定し、多様な取組を展開
 - 「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」の活用による出前講座の充実
 - 「『職場体験・インターンシップ』実施の手引き」(学校編) (企業編)の活用による取組の促進



徳島の強みを知る企業見学

発達段階に応じたキャリア教育の推進

- 学校での学びと社会との関わりを意識した取組
 - 地域の企業と連携した起業体験活動
 - 職場見学・職場体験・インターンシップの充実
 - 産官学連携「徳島ならではの」ものづくり
 - 児童生徒と保護者が参加する企業見学バスツアーの実施



小学生によるビジネスプラン作成

➤ 高等学校 インターンシップ実施率

H27 92.7% → H28 95.1% → H29 96.4%



高校生から中学生へ
技術指導

1.2 次代を生きぬくキャリア教育の推進

口 高大連携による「人財」育成

- 大学への接続を意識した多様なキャリアパスの普及

専門高校からの大学進学

・ 徳島大学生物資源産業学部推薦入試地域枠

- 「アカデミック・インターンシップ」の実施



大学生と共に受講



医師体験（外科結び）

今後の方向性

予測困難な時代を主体的に生き抜くための
キャリア教育が求められている。

- Society5.0に向けた時代の潮流を据え、新たな「キャリア教育推進指針」の策定
- 児童生徒が学びの履歴やキャリアプランニングの過程を振り返りながら将来について考える教材「キャリア・パスポート」の活用
- 大学等の卒業後を見通した就業体験の充実

1.3 徳島発の小中一貫教育の推進

□チェーンスクール・パッケージスクールの全県展開

平成25年度
チェーンスクール 1地域3校
パッケージスクール 1地域2校



平成30年度
チェーンスクール 6地域19校
パッケージスクール 3地域 6校

- 小中教員の相互乗り入れによる連携授業
- 交流学习や合同行事
- TV会議システムの活用

- 学校間連携の強化
- 学力向上・中1ギャップの解消
- 多様な学習活動の展開



TV会議システムによる3校合同授業

今後の方向性

小規模化する学校においても教育の質の保障が必要である。

- 地域で取り組む「徳島モデル」の成果を県内外に広報・普及
- 地域と学校が一体となって特色ある学校づくりを進める「コミュニティ・スクール」の導入の推進

1.4 二地域居住を加速する学校間移動の実現

□ 二地域居住を加速する

「デュアルスクール」実証事業

【背景】 二地域居住のライフスタイルが拡大

- 親の短期滞在にあわせ、子どもたちも一時的な転校を行う制度
- 本県の政策提言を反映し、（平成29年7月）**文部科学省が「区域外就学制度」活用を全国に通知**
- 現在までに東京都から3組の家族が計11回実施



- 地方創生や働き方改革の観点から高く評価
平成29年度全国知事会「先進政策大賞」受賞

今後の方向性

制度化に向け、更なるモデル事例の積み重ねが必要である。

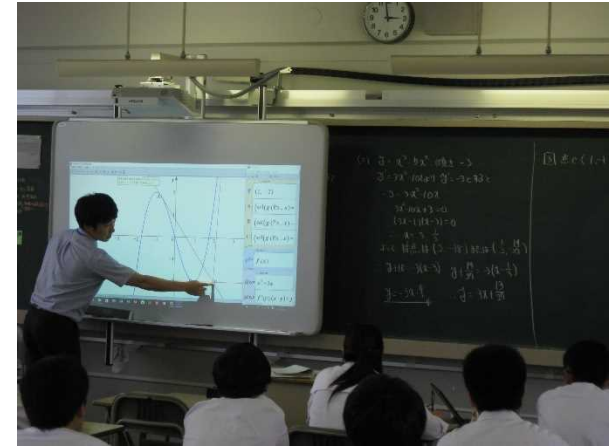
- **積極的なPR活動**の推進
- 転校事務の簡素化に向け、**国への政策提言**を継続



1.5 全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進

〇本県における人材育成に向けたICT活用教育

- 「電子黒板システム」を活用したICT活用教育
 - ・ICT活用のベストミックスによる「わかる授業」の展開
- 「教育ビッグデータ」を活用した個に応じた学習
 - ・ビッグデータを活用した個に応じた学習の検証
- 「テレビ会議システム」を活用した遠隔教育
 - ・多様な学習活動の在り方の検証
- 情報活用能力の育成を目指したプログラミング教育
 - ・小学校におけるプログラミング教育の実践研究



電子黒板システムを活用した授業

今後の方向性

未来の創り手の育成に向けて、
さらなる教育の情報化が求められている。

- 先端技術を活用した教育の充実
 - ・AI, ビッグデータ, VR等の先端技術を活用した教育の充実
- 技術革新に対応できる人材の育成
 - ・児童生徒の情報活用能力の育成及び教職員のICT活用指導力の育成



タブレットを活用した
プログラミング教育

1.6 地域防災を担う人財の育成

□ 高校生防災士育成・活躍推進支援事業

- 高校生を「防災士」として育成
- 「防災クラブ」の活動のリーダー的存在に
- 将来の地域防災の担い手に

□「防災士」資格取得の高校生
(含: 県立中) 累計 373名(平成29年度)



□ ふるさと大好き！地域防災推進事業

- 全ての高等学校に「防災クラブ」設置
- 地域と連携した防災活動を展開
- 防災の担い手として実践力の向上
- 中学校に「防災クラブ」設置を拡大中

- 設置数(平成30年度現在)
- 高等学校の「防災クラブ」
35校 / 35校中(含: 市立高)
 - 中学校の「防災クラブ」
38校 / 82校中(含: 県立中)

「高校生防災士」が「防災クラブ」の活動を通じて実践力を向上させる「徳島モデル」が確立

今後の方向性

学校防災力の向上と、地域と連携した防災の担い手の育成が求められている

- 各学校における実践的な防災教育の推進
- 高等学校、中学校における「防災クラブ」の活動の充実
- 将来の地域の防災リーダー育成のため、防災士の資格取得を支援



重点項目 II

一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

- 1 「知徳体」が一体となった成長を支援
- 2 子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり
- 3 将来を担う若者への主権者教育の充実
- 4 全国モデルの消費者教育の推進
- 5 新たな成長産業を生み出す教育の推進

2.1 「知徳体」が一体となった成長を支援

□ 確かな学力の育成

「学力向上『徹底』プロジェクト（平成27年度～）」

- ・ 学力向上に対する意識の共有
 - 学カステップアップテストの拡充
- ・ 授業改善
 - 学力向上拠点校事業の実施
 - 指定校訪問の実施
- ・ 管理職のマネジメント力の改善
 - 「実行プラン」の改善によるPDCAサイクルの確立
- ・ 家庭学習の充実
 - 「家庭学習ノート」の活用



アクティブ・ラーニングによる授業改善

- 学力向上に向けた組織的な取組の定着が進む
- 全国学力調査（小^{②⑥}42→27→23→24→^{③①}40位）
（中^{②⑥}31→29→21→15→^{③①}12位）

2.1 「知徳体」が一体となった成長を支援

□さらなる学力向上に向けて

徳島『未来の学び』創造プロジェクト（平成30年度～）

- ・ 学力向上実行プランに基づく学力向上の推進
- ・ 学校訪問の拡充
- ・ 学力向上確認プリントを効果的に活用したPDCAサイクルの構築
- ・ 「授業改善」推進校の指定

「主体的・対話的で深い学び」の実現

今後の方向性

急激に変化する社会に対応できる「確かな学力」の育成が求められている。

- 学校において組織的な取組の蓄積や優良な取組から学ぶ体制の構築
- 国語カタクフォーカスにおける授業改善による「読み取る力」の育成
- 「みんなでする」「つづけてする」「とことんする」！



主体的・対話的で深い学びの実践

2.2 子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり

□ 自他を尊重し、いじめを生まない学校づくり

□ いのちと心の授業



「いのちの授業」の様子

□ 全国いじめ問題 子供サミット



「ポスターセッション」の様子

□ 徳島版予防教育



「自己信頼心」を育成する
授業の様子



生命
尊重

メンタル
ヘルス

いじめに
立ち向かう心

仲間
意識

情報
モラル

2.2 子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり

□子どもの悩みや相談を受け止めることができる環境づくり 教育相談体制の充実（心理・福祉に関する支援）

- ・ スクールカウンセラー
- ・ スクールソーシャルワーカー



- ・ 全ての公立学校に配置派遣できる体制を整備
SC . . . 43名 (H25) → 49名 (H30)
SSW . . . 9名 (H25) → 23名 (H30)
- ・ SCの常勤化に向けたモデル事業の実施
(県立学校2校, 適応指導教室1箇所)

- ・ いじめ・不登校等の未然防止・早期解決
- ・ 子どもの貧困対策, 児童虐待への対応
- ・ 保護者への支援・教職員との協働・負担軽減



SC・SSW連絡協議会

今後の方向性

いじめ防止に向け,さらなる活動の充実が求められている。

- 自他の生命を大切にする豊かな心の育成
- いじめ問題を自分のこととしてとらえ, 解決しようとする態度の育成
- 専門家との協働や支援体制のより一層の充実強化

・ SC・SSWの人材確保, 配置拡充

2.3 将来を担う若者への主権者教育の充実

□ 自ら考え、自ら判断する主権者の育成

➤ 出前講座の実施

選挙管理委員会職員や大学教員等を学校へ派遣

➤ 主権者教育に関する教員研修会の実施

講義や各校の取組に関する情報交換等

➤ ハンドブック(H28作成)の配布

『私がかわる
「社会(YONONAKA)」がかわる！
私がかえる
「社会(YONONAKA)」をかえる！
はじめの一歩！！』の配布



由岐中学校での出前授業



鳴門高校での模擬投票

今後の方向性

成人として自立し、責任を担い協働できる若者の育成が求められている。

- 「出前講座」や「教員研修会」の内容を充実させ、継続実施
- ハンドブック(H28作成)の改訂・配布
- 高校生リーダー交流集会の実施、PTA会長指導者研修会で説明

2.4 全国モデルの消費者教育の推進

□徳島ならではの消費者教育の推進

- 消費者庁作成教材「社会への扉」の活用
全国に先駆け、**県内全ての高等学校等で実施**
- 講演・出前授業による消費者教育の展開
とくしま「消費者教育人材バンク」を活用した
小・中・高校のニーズにあわせた講師派遣
- 「Go!Go!エシカル」わくわく徳島プロジェクト
 - 「エシカル消費」リーディングスクール
実施校3校
 - エシカルクラブ 31年度全公立高校に
 - 次世代エシカルフェス 開催



「社会への扉」を活用した授業



次世代エシカルフェス
H30. 7. 21

今後の方向性

成年年齢引下げに向け、消費者教育の拡充が求められている。

- 小・中学校段階からの系統的・体系的な消費者教育の促進
- エシカル消費の取り組み成果を全国に向けて発信

2.5 新たな成長産業を生み出す教育の推進

□林業実践教育

➤ 那賀高校「森林クリエイト科」 平成28年4月 開設

- ・ 林業を専門に学ぶ単独学科
- ・ 伐木，製材，商品開発などの多様な実習
- ・ 「製材実習棟」「測量実習棟」等の整備

那賀高校「製材実習棟」



加工実習



□6次産業化教育

➤ 城西高校「アグリビジネス科」 平成29年4月 開設

- ・ 農工商を融合した6次産業化専門学科
- ・ 生産・商品開発・加工・販売に対応した
6次産業化実践教育
- ・ 「アグリビジネス実習棟」整備

城西高校「アグリビジネス実習棟」



販売実習



➤ 阿南光高校 平成30年4月 開校

- ・ 農工商が一体化した総合産業高校
(阿南工業高校と新野高校を再編統合)
- ・ LED植物工場，食品加工実習室等の整備
- ・ 徳島大学との高大接続教育

阿南光高校「本館」



LED植物工場



2.5 新たな成長産業を生み出す教育の推進

➤ 「6次産業化プロデュース事業」 平成27年度～

- ・ 農業・工業・商業科設置校等による連携活動
- ・ 分業ではなく、学科の枠を越えた協働連携
- ・ 地域資源をテーマに、6次産業化商品の開発

県央 (阿波藍)、県南 (ゆこう)、県西 (アロマオイル)



成果:6次産業化商品プロデュース数
3件 (H27) → 5件 (H28) → 7件 (H29)

今後の方向性

実践力を備えた次代の地域産業を担う人財の育成が必要である。

- 充実した施設を
 - ・ **他校との学校・学科間の枠を越えた協働活動**
 - ・ **大学や企業、地域等との連携活動** に積極的に活用
- 戦略的な販売実習や市場調査などの実践的取組の充実
→ **高付加価値商品の開発、販売拡大**
- 農大や徳大・生物資源産業学部などへのキャリアアップの支援



東京オリ・パラ1000日前
イベント販売実習 (県央)



ゆこう
マーマレード
製造 (県南)



アロマ×未利用木材
商品開発 (県西)

◆ 4年間の取組

重点項目 III

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

- 1 郷土愛を育む教育の推進
- 2 徳島発、世界を体感できる環境づくり
- 3 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

3.1 郷土愛を育む教育の推進

□あわっ子文化大使の育成

➤「あわ文化検定」の実施

- 合格者の中から「あわっ子文化大使」を認定
計173名誕生

➤「あわっ子文化大使サポーター」の誕生

- 高校生が後輩たちの活動をサポート
(平成30年度現在 62名)



あわっ子文化大使(阿波藍の魅力発信)

□文化芸術リーディングハイスクールの創設・推進

➤ スキルアップ講習の実施

- プロの芸術家や芸術系大学の教員と連携

➤ 地域との交流, 成果の還元

- 名西高校音楽サポーター制度の創設
(平成30年度)
- 大型商業施設等での演奏会や展覧会の実施



名西高校生による中学生への技術指導

3.1 郷土愛を育む教育の推進

□ 第38回近畿高等学校総合文化祭徳島大会の開催

(平成30年11月10日～25日)

- 近畿2府8県から6,500人を超える高校生が一堂に集結
 - ・ 日頃の文化活動の成果を披露
 - ・ 生徒同士の交流の活性化
- 「徳島の魅力」を高校生が全国に発信
 - ・ 阿波藍をはじめ「あわ文化4大モチーフ」を演劇や阿波おどりでアピール



近畿文徳島大会 総合開会式

映像提供：テレビトクシマ



今後の方向性

東京オリ・パラや近畿文徳島大会の成果をレガシーとして次代に継承することが求められている。

- 次代を担う児童・生徒の文化芸術活動のさらなる充実
- あわっ子文化大使と高校生・大学生サポーターとの連携による「あわ文化」の情報発信

3.2 徳島発、世界を体感できる環境づくり

□Tokushima英語村プロジェクト

- ALTとともに徳島を学ぶデイキャンプ事業(**小学校5、6年生対象**)
- イングリッシュ・キャンプ(**中学生対象**)
- 徳島サマースクール(**高校生対象**)
- 高校生「ジュニア観光ガイド」養成講座

- 小学生や中学生の参加者が**次の段階の事業に参加**
- 「ジュニア観光ガイド」養成講座参加者が**阿波おどりや県内のスポーツ世界大会で観光案内**
- 参加者が高校在学中に**長期海外留学経験**



今後の方向性

英語コミュニケーション能力の向上が求められている。

- 英語教育の早期化を踏まえ、**小学校3、4年生に機会提供**
- **スピーキング能力の一層の強化**

3.2 徳島発、世界を体感できる環境づくり

ロ徳島ウインターキャンプ

【キャンプA】日帰り2日間

日時：平成29年12月9日（土）・10日（日）

内容：県外講師による特別講座
県内高校教員による実践講義 など

【キャンプB】1泊2日

日時：平成29年12月16日（土）・17日（日）

内容：京大教授等によるセミナー
知事，本県高校卒業大学生との座談会
参加生徒と教育長との意見交換 など

【キャンプ後】LINE等で情報発信

○成果：参加生徒の意欲・学力向上，難関大学合格者多数
参加生徒のネットワーク形成



県外講師による特別講座



知事，大学生との座談会

今後の方向性

予測困難な社会において徳島や日本の未来をリードできる人材の育成が求められている。

- より一層の意欲向上・学力向上を図るため**キャンプ内容の充実**
- これまでの参加生徒のネットワークを活用した「**里帰り**」**協力体制の構築**

3.3 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

□渦潮スポーツアカデミー推進事業

本県で唯一スポーツ科学科を設置する鳴門渦潮高校をスポーツ科学の拠点と位置け、選手強化と指導者育成に取組み、本県スポーツの振興を図る

ユースアスリート科学サポート事業



徳島県トップアスリート発掘・育成プログラム



Tokushimaスポーツキャンプ



スポーツ拠点校推進事業

鳴門渦潮高校
専攻実技8競技
陸上競技部全国優勝や
女子サッカー、女子ラグビー
全国ベスト8を含む、
全8競技全国大会出場

□徳島トップスポーツ校育成事業

徳島トップスポーツ校育成事業

20校36部を指定

強化推進校 S

- ・ 全国大会団体 8位以内
- ・ 全国大会個人 8位以内

競技普及校 A

地域活性化校 B



成果

女子バレーボール
男子ソフトボール
ライフル射撃競技
ウイトリフィング など
継続して全国入賞

3.3 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

□プロスポーツ感動体験事業

本県野球の競技力向上を目指し、元広島東洋カープ投手の「川端 順」氏による中学校・高等学校への継続的な巡回指導を実施



優秀なピッチャーを発掘・育成



全国大会で活躍できるチーム

NEO徳島トップスポーツ校強化事業

今後の方向性

- ・成果主義による有力指定校の集中強化
- ・新たな強化種目(お家芸競技)の創出

- ・競技団体や関係機関、大学等との連携強化

ジュニア選手の発掘から
中学・高校に継続する指導体制のもと、
国際大会や世界で活躍できる選手を育成

24校45部を指定

選択と
集中

お家芸
競技創出

成果
主義

強化指定校
(強化費&入試枠)
・全国大会8位以内

成果による昇降

育成指定校 (入試枠)

◆ 教育を取り巻く新たな課題

- 1 これからの情報社会に向けた人材育成
- 2 成年年齢引下げへの課題
- 3 新学習指導要領への対応
- 4 すべての人の人権が尊重される人権教育の推進

1 これからの情報社会に向けた人材育成

□ 新たな未来社会

・ 第4次産業革命時代の到来

- ・ AIやIoT, ビッグデータなどがもたらすイノベーションにより 「第4次産業革命」時代が到来

・ Society5.0

- ・ 第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱
- ・ サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムによる社会



Society5.0のイメージ図
(内閣府HPより)

□ 先端技術(EdTech)の教育への活用

- ・ eラーニング, AI, ビッグデータ, VR等を活用した学習
 - ・ AIを活用した英語学習
 - ・ 教育ビッグデータの分析により, 学習傾向や学習行動を可視化

●EdTech (エドテック) とは

- ・ Education×Technology (教育×テクノロジー) の造語
- 教育とテクノロジーを融合させ新しいイノベーションを起こす

□ STEAM教育の広がり

- ・ 科学 (Science) ・ 技術 (Technology) ・ 工学 (Engineering) ・ 芸術 (Art) ・ 数学 (Mathematics) を重視した教育
 - ・ プログラミング, VR/AR等を駆使したSTEAM教育

1 これからの情報社会に向けた人材育成

□中央教育審議会答申

・情報活用能力の位置付け

- ・教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力の一つ

・プログラミング教育の新たな実施

- ・時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」などを育む

□先端IT技術者の不足

- ・AIやIoTなどがもたらすイノベーションに即応できる人材の不足

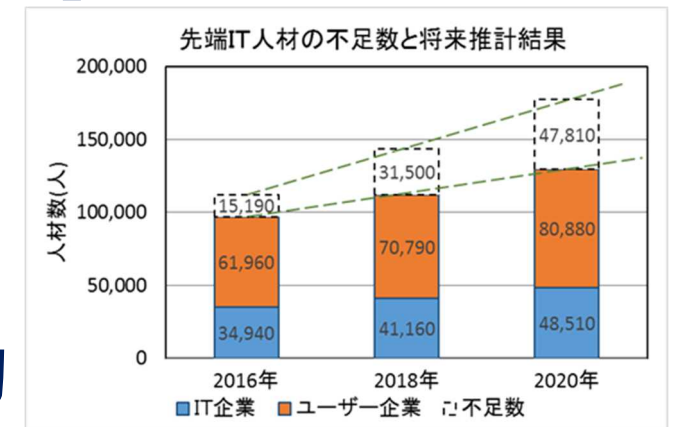
□未来の創り手となるために必要な資質・能力

➤情報活用能力の育成

- ・情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題の発見・解決、自らの考えを形成する資質・能力

➤情報教育の一層の充実

- ・情報を整理・分析・表現し、他者との協働で思考を深める
- ・主体的に新たな価値を生み出す
- ・情報モラルを身に付け、情報社会に主体的に参画し創造する態度



先端IT人材の不足数
(経済産業省)

2 成年年齢引下げへの課題

■ 消費者教育の更なる推進

名義貸しやSNSによるマルチ取引など、若年者の消費者被害を防ぐために、

- ・ 小学校や中学校段階からの体系的な取組
- ・ 特別支援学校での取組

主体的に判断し責任を持って、
行動できる自立した消費者

■ 自立支援に関する取組の推進

主権者教育

キャリア教育

教育相談体制

社会の中で自分の役割を果たし、
自分らしい生き方を実現するための
力の育成



「社会への扉」を活用した授業



高校生企業見学バスツアーの様子

3 新学習指導要領への対応

知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」
育成すべき3つの資質・能力



幼稚園→小学校→中学校→**高校**→**大学**→社会へ **一貫した学びが必要**

「高等学校教育」改革
資質能力の確実な育成

高大
接続
改革

「大学教育」改革
社会に送り出すために資質・能力を
更に向上

「大学入学者選抜」改革
資質能力を多面的・総合的に評価

4 すべての人の人権が尊重される人権教育の推進

人権関連三法
平成28年施行

- ・ 部落差別解消推進法
- ・ ヘイトスピーチ解消推進法
- ・ 障害者差別解消法

差別解消に向けた教育の必要性

教職員への研修

個別人権課題に
対応した研修



授業における教育活動

協力・参加・体験



地域への発信

オープンスクール
リーフレット配布



人権尊重社会の実現

ご清聴ありがとうございました